

令和2年度 学校図書館活用推進実践報告

新潟市立大江山中学校

1 はじめに

全校生徒 169 名（学級数 8）、2019 年度統計蔵書冊数 10752 冊（図書標準 8430 冊）
貸出冊数 2250 冊（一人平均 13 冊）

(1) 読書センターとして

貸出冊数には個人差があるが、図書館で読書や調べ物をする生徒も多い。毎朝 10 分間の朝読書を行っている。読書傾向に偏りが見られるため、名作に触れてもらおうと今年度は SLBA の集団読書テキストを使用する試みを行った。最新のテキストのため、瀬尾まいこなど最近の作家の作品であること、読みやすい字体であることで楽しみながら読書することができた。図書館で続編を探し求める生徒もいた。また、除籍した本の中から学級文庫に入れる本を図書委員に選書させたところ、自分達が選んだ本を積極的にクラスメートにすすめる生徒が多く見られた。



(2) 学習・情報センターとして

「教職員向け図書館便り」で、教職員に公共図書館の貸し出しの流れについて説明した。さらに司書の机の上に図書館利用カードを置き、公共図書館のオレンジボックス貸出図書リストを自由に閲覧できるようにした。また、授業で計画的に図書館を活用するための図書館年間活用計画表を作成した。図書館活用授業で使う本について、購入や貸出の依頼や相談が多く寄せられた。



2 具体的実践事項

(1) 読書センターとしての図書館の取り組み

環境整備のため、基準を 2000 冊を超えていた本を支援センターのご助言をいただき 1000 冊ほど除籍した。情報の古くなった図鑑や学習に関する本を廃棄し、資料を大幅に更新した。図書館入り口近くに調べ学習用・時勢に応じた新しい本を並べた。新しく分類表を作成・掲示し、年度初めにクラスごとに行う図書館利用オリエンテーション後も、生徒が日本十進分類表を意識し、自ら本を探することができるよう工夫した。また、生徒が探している本がどこにあるのかがすぐわかるよう、作者別の見出しを作成した。



(2) 学習・情報センターとしての図書館の取り組み

① 新コーナーの作成

戦争の本コーナー

戦争の本は教科をこえて活用され、作文・レポートなどの課題が出た際の活用が多く、図書館内での掲示を求められる機会も多いことから、2類（歴史）3類（社会）9類（ノンフィクション）とばらばらに置かれている本をまとめたコーナーを作った。コーナーを作る際に、『禎子の千羽鶴』の本の横で折り鶴を折る生徒や、司書を手伝い進んで本集めをする生徒もいた。



英語の本コーナー

英語と日本語で書かれている絵本を並べ、読み比べができるようにした。英検に興味をもち学習に取り組む生徒の利用を促すための参考図書を置いた。カウンター横に置いたため、「英検の本がある!」と英検前に借りる生徒も増え、英語の絵本に親しむ生徒も見られた。



大江山中のコーナー

これまでは司書室で保管しており、生徒が閲覧することができなかった、生徒会誌や修学旅行の冊子など展示した。生徒は、家族の掲載箇所を探すなどし、ロコミで広まり、大江山中コーナーを目当てに来館する生徒も増えた。また生徒の国語の課題作品や創作部の作品も展示したことは生徒の励みにもなったようである。



NIE コーナー

NIEの研究指定を受け、従来の新聞コーナーを作り直した。以前からあった朝日中高生新聞に、読売中高生新聞を追加し新聞を読み比べできるようにした。広報図書委員会が2つの新聞の読み比べ、表をわかりやすく作成し、NIEコーナー担当の委員が新聞を毎週読み付箋で見出しを貼ったところ、入試関連の記事などに興味を示す生徒も見られるようになった。また、図書館前と階段踊り場にNIEコーナーを作り、「新聞の構成」の掲示に加え「司書の今日の1面コーナーと1言コメント」を毎日更新している。中高生の投書記事を掲示するようにしたと



ころ応募者も出て実際に新潟日報に掲載されることもあった。新聞を購読していない家庭が増えるなか、新聞をより身近なものとして感じてもらえるコーナーになるよう工夫した。



新聞川柳大会を開催した



SDGs コーナー

SDGsの本や資料を並べ、広報委員が気になる記事をスクラップ掲示した。記事が17の目標のどの番号に当たるのか考え、意見を記入し付箋を貼った。例えば「東南アジアの国の少女が貧困のために富裕層に嫁いでいく」といった1つの記事でも、1の目標「貧困をなくそう」2「飢餓をゼロに」3「すべての人に健康と福祉を」など、様々な目標に重複していることに気づき、社会の課題・ニーズをとらえることができている姿が見られた。LGBTの記事では多様性を認め合う意見も多く、拉致問題では自分だったらと考えを記入し、記事を読み込む生徒も多かった。SDGsに関わる本を借りたり、家庭での話題になっている話をしてくれたりする生徒もいた。記事を探し、友だちの意見を真剣に読む姿勢が、新聞活用を通じて、学校全体の学びにもつながったように感じた。



② 小学校図書館との連携

連携会議の開催と廃棄図書の利用

小中三校の司書が、互いの学校を訪問し情報交換を行った。それぞれの学校図書館で順番に連携会議を開催し、蔵書を確認した。シリーズものの本を一覧にした表、生徒のリクエストや図書館利用の実態を調べたアンケートについて話し合い、人気図書や、児童生徒の利用の状況や興味の傾向などについて報告し合った。中学校訪問時には、廃棄図書の中から、小学校の学級文庫等に活用できるものを選んでもらう機会を設けた。特に小学校の司書が中学校を訪問する機会はなかなかなく、参考になったと喜ばれた。



情報カード

中学校が中心となり、小中共通の情報カードを協力して作成した。調べやすいよう、媒体をインタビュー・新聞・本・インターネット用に分け、更に、小学校低学年と高学年・中学生用で12種類を作成した。授業だけでなく、生徒が図書館で利用できるよう、図書館で常備し、記入の見本には、理科の授業で行ったイモリとヤモリの見分け方をテーマにして掲示するなど工夫した。シートには、調べていく過程で生まれた新しい疑問を記入する欄をもうけ、学びのサイクルを導くように工夫した。また、情報を整理・分析する思考ツールのシートを17種類用意し、教諭や生徒がいつ来館しても使えるようにした。



読書週間でのコラボ

読書週間企画として、貸出冊数によってしおりやブックカバーをプレゼントした。ブックカバーは創作部が作成したもので、丸山小学校と大淵小学校にプレゼントした。3校の図書委員会との交流の機会にすることができた。



③ 授業での活用実践

〈国語〉2年 読書活動「1年生に薦める本～読書案内を作ろう」

「1年生に薦めたい本を探そう」を夏休みの課題とし、2学期最初の学習として、図書館で、薦める本の情報を集め、友だちと考えを共有し、自分の考えをまとめて文章にするという学習である。「主人公が中学生だから」「中学生が読みたくなる内容だから」「部活の物語だから」など、なぜ1年生に薦めたいかという理由を明らかにし、本を手にとってもらえるよう、「映画化された」「他にはこんな作品を書いている」と、集めた情報をわかりやすく工夫してポスターを作った。司書に相談し、アドバイスを求めることで、充実した読書案内を作ることができた。また、完成した読書案内は、広報図書委員会主催の読書週間時に掲示し、1年生に紹介した。



作者について、他にどんなことを調べるとよいでしょう・・・司書にアドバイスを求めた。

あ～ここにあったんだ！司書と一緒に資料を探す生徒。

「君の選んだ本、面白そうだね。」と、紹介し合いながら学習を進めた。

読書週間には1年生に本と一緒に展示され貸し出しも多かった

〈理科〉2年 調べ学習「図書資料を活用して、身近な脊椎動物を分類しよう」

図書資料を活用し、生活の様子に着目すると間違っ分類しそうな動物を中心に、前時までに見いだした分類の観点をもとに、からだのつくりに着目して正しく5グループに分類するという学習である。生徒が動物を分類する際、その根拠を文章にしながら分類することが重要であり、根拠を図書資料から探す活動を行った。司書が近隣の図書館から動物の分類や図鑑を多数用意することで、多様な分類観点について網羅することができた。班で分担し思考ツールを利用し、協力してからだのつくりについて調べ、全体で共有する場面でも、図書資料の内容を示すことで、根拠をもって表現することができた。



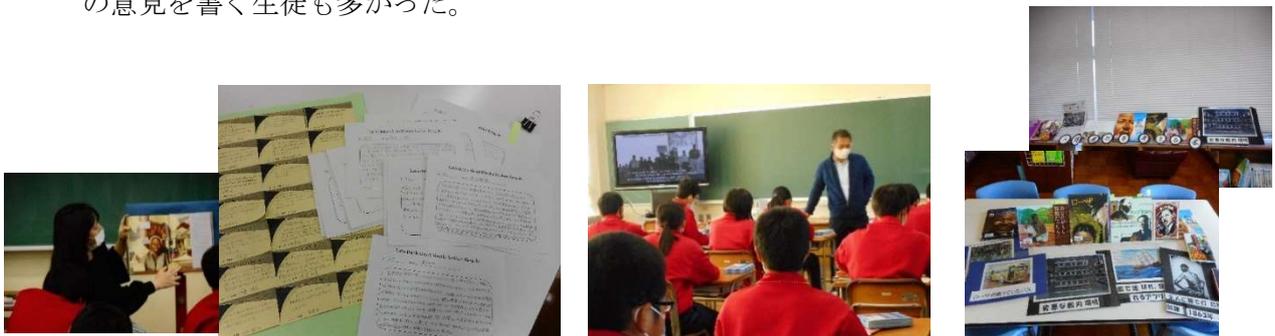
図書を参考にしてグループ学習を行った。

近隣の図書館から借り、たくさんの資料を準備し

くま手チャートに記入し、発表して、クラス全体で共有した。

〈英語〉3年 読み聞かせとBOOKトーク 「I have a dream」ローザ

黒人差別について取り上げた教材について、関連図書を読み聞かせを依頼された司書がブックトークの追加を提案し、行った。「あなたがもし奴隷だったら・・・」「キング牧師とローザパークス」についてブックトークを行い、その後、読み聞かせを行った。奴隷船から奴隷の死体が流される様子や劣悪な船内環境など衝撃的な絵や KKK などの写真を見せたときには、生徒の反響も大きく、教員からも、奴隷の残酷さがよくわかってよかったと好評であった。キング牧師の講演のビデオとの相乗効果で、人種差別や公民権運動の理解が深まった。アンケートにたくさんの意見を書く生徒も多かった。



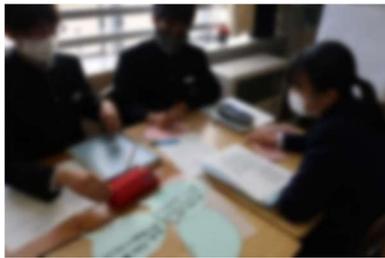
司書が教室に出向き、ブックトークや読み聞かせを行った。

学習している単元の内容について、興味と理解が深まった。

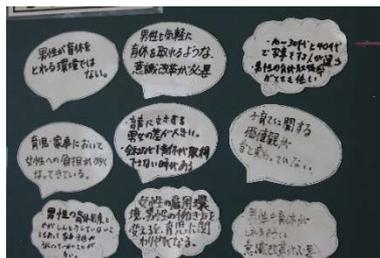
授業後には、図書館に関連図書展示コーナーを特設した。

〈家庭科〉 3年 NIE「子どもを取り巻く環境としての家族の現状を考えよう」

子育て支援のための生徒や施設について、新聞記事を比較して読むことで、現状と課題に気づき、解決の方向性を考える学習であった。新聞を使い子育て支援の現状を知るという学習の導入時に、司書に相談し4年前の新聞記事を取り寄せてもらった。子育ては生徒にとって決して身近な題材ではない。しかし、生徒はさまざま新聞記事を読み、教科書では得られないより新しい、より詳しい情報に触れながら課題に取り組むことができた。子育て支援のための制度や施設について、解決の方向性を考えるという学習は、かなり難しい内容であったが、子供たちは授業に意欲的に取り組むことができた。



様々な新聞を読み、各自の考えを出し合い、話し合った。



グループで話し合ったことを、クラス全体で共有し、考えた。



さらに新しい記事から、最新の社会の様子を知ることができた。

〈保健体育〉 3年「がん予防について考えよう」

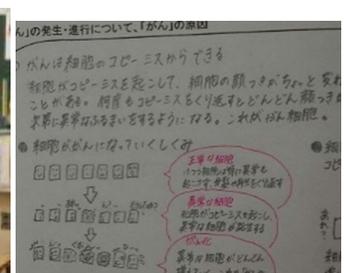
がんにならないために、中学生の今からできることは何だろうというテーマで学習であった。テーマについて適した資料の相談をうけた司書が、支援センターのアドバイスをを受けながら、自校の図書10冊と、公共図書館から30冊ほど借り、資料を整えた。1時間目で、がん予防の生活習慣について学習した後2時間目に、授業者と司書が協力し、司書が学習のまとめのクイズを行った。また、新潟日報の厚生労働省調査の国民健康・栄養調査の新聞記事を取り上げ、紹介した。生活習慣改善を面倒くさいと回答されていることや、仕事が忙しいことが運動週間の定着の妨げになっていることなどを説明し、中学生の今から予防に努めようと呼びかけた。



授業に有効な資料として40冊の図書を準備した。



ペーパーパートを使用しながらの学習のまとめクイズで、楽しみながら授業内容を確認した



図書を参考にして作成した掲示物を廊下に展示した。

〈社会科〉3年 NIE 公民分野「司法権の独立と裁判」

ゲーム依存症対策条例について、合憲か違憲かを多面的・多角的な視点に立って根拠を整理することを通して、人権の尊重や慎重な裁判の場を確保することに異議について理解を深める学習だった。司書と相談し集めた関連する新聞記事を使い授業を行った。生徒は様々な立場からの意見を読み、香川県のゲーム依存症対策条例が合憲か違憲かを考えそれぞれの根拠を整理した。



分担した様々な新聞を読み、それぞれの立場から合憲か違憲かを考えた。



グループで話し合ったことについて全体で共有した。



意見を聞き、最終的に自分の意見を整理した。

(4) 学校図書館活用の取り組みの成果と課題

読書センターとしての図書館の役割として、読書指導の充実を推進していくことが重要であるが、生徒は日常生活の様々な活動で多忙であり読書の時間を確保することは難しい。そのような中で、図書館の環境を整え、新たなコーナーを新設したことは生徒の読書に対する興味を広げることにつながった。

学習・情報センターとしての図書館の取り組みとしては、全校生徒が効果的に図書館を活用するために、教科と連携し、教科の学習で組織的・計画的に活用することが必要である。教科で学校図書館を利用することで、教諭と司書が連携する授業が増え、学びが充実したものになった。年間指導計画を作成し、学校司書とどのように連携し進めていくことが効果的な学びになるかを話し合いながら、授業を構想した。効果的な資料の提示ができたことで、理解が深まり、ブックトークや図書館の特設コーナーで、新たな興味や関心を抱く生徒が見られた。小中連携では、中学校が中心となって情報カードを作成し、探究学習に生かすよう、各学校で工夫をしている。こういった活動がより充実したものになるよう、小中司書協議会を定例とし、9年間の図書館教育の連携を継続していくことが大切である。今後はさらに、学年や教科横断的な学び、タブレット端末利用との連携など、司書と教科担当で協力して、効果的に学校図書館を活用していくことが、生徒の充実した探究的な学習につながると考えている。

今後の課題として、今後導入されるタブレット端末をともに積極的に図書館の蔵書で得た知識を考察・分析し深く洞察し、話し合い、まとめ、表現し、振り返り生まれた新たな疑問を探究していく生徒の育成があげられる。そのためにも情報カードは教諭の授業実践にヒントを得ながら相談しつつ作成を進めたが、さらに今後の授業での活用状況に応じて、利用者の意見を聞きながら柔軟に改善していければと考えている。また、図書館で目的とする図書にたどり着けるようパスファインダーの作成にも取り組んでいきたい。社会のあらゆる問題には正解がないものが多い。そして情報が簡単に手に入る情報過多の時代であるからこそ、得た情報を適切に活用できる能力の育成が、予測不能な時代を生きていく生徒の力になる。学校図書館は、生涯の学びの基礎となる主体的・対話的で深い学びの活動を支援していきたい。